

ガス警報器 (LPガス用)

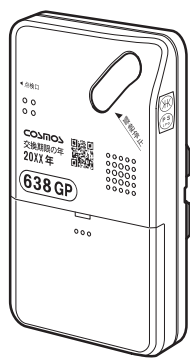
型式 XH-638GPa 電源プラグ抜き出力機能つき

取扱説明書 [保証書付]

このたびは、ガス警報器をお買い求めいただきありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書を最後までお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方いつでも見られるところに、必ず保管してください。なお、万一、本書を紛失されたときは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- この警報器はプロパンガス、ブタンガスなどの液化石油ガス(以下LPガス)を検知します。
- 都市ガスをご使用のご家庭には、都市ガス用のガス警報器を設置してください。
- 不完全燃焼および酸素欠乏による中毒防止用ではありません。
- ガス検知部にガスが到達しないときは、警報機能が働きません。
- ガスもれの発生を未然に防止する装置ではありません。
- ガスもれなどによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 取付場所から離れたところで発生したガスもれや、他の部屋で発生したガスもれには警報を発しないことがあります。
- 警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーをよくお読みください。警告表示「警報器が鳴った」ステッカーに緊急連絡先が記入されていることを確かめてください。

マイコンメータ運動型誤報防止型
高圧ガス保安協会検定合格品



保証書

このたびは、ガス警報器をお買い求めいただきありがとうございます。この製品は高圧ガス保安協会の検定に合格したものであります。従って正常な使用状態での故障の心配はありませんが、万一、保証期間中に異常を生じた場合は、速やかにお買い求めの販売店に連絡し本書を提示してください。次の変換で下記の記載または交換いたします。

- 保証期間 警報器本体に表示された交換期限の期間内、取扱い説明書に基づき正しく使用され、故障が製造上の責任による場合は無料で交換します。
- 保証適用外 以下の保証の適用除外項目に記載のある事項の場合。

TEL: _____
TEL: _____

新コスモス電機株式会社 (販売元および発売元)

- 保証の適用除外 この製品は保証期間中でも次のような場合、交換は有料となります。
- (1) 使用後の故障または不注意によって生じた故障または損傷。
- (2) 火災、天災、異常電圧、異常温度等の不可抗力による故障および損傷。
- (3) 取付位置が屋外、高温多湿等著しく不適当な場所および浴室に取り付けられた場合。
- (4) LPガス以外のガス、水や煮こぼれ等の液体、動物物による故障または損傷。
- (5) その他使用上の誤り、分解、改造されたもの、衝撃等による故障または損傷。
- (6) 本書の提示がない場合、ただし本書は日本国内のみ有効です。
- (7) 本書に販売店名の記入のない場合。
- (8) その他販売者、製造元および発売元の責任によらぬ汚損、故障または損傷。
- (9) 高圧ガス保安法に基づいて設置された警報器の場合。

お名前: _____ TEL: _____
ご住所: _____

1 H638GPaCT_1(03)

1.安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みください。お客さまや他人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、以下の表示で区分しています。

- △危険 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定される」内容を示します。
- △警告 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。
- △注意 誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性および物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示しています。

絵表示の内容

- ⊘ 「一般の禁止」 ⊘ 「分解厳禁」 ⊘ 「ぬれ手禁止」
- ⊘ 「火気厳禁」 ⚠ 「必ず行う」 ⊘ 「水ぬれ禁止」
- △危険 ガス警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。爆発のおそれがあります。
- ⊘ マッチやライターなど、火気を使わないでください。
- ⊘ 電源プラグを抜かないでください。
- ⊘ 換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しないでください。
- ⊘ 部屋の外から、すぐに入室しないでください。

警告

- ⊘ 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
- ⊘ 衝撃を与えないでください。故障の原因となります。

常に通電されていること(緑ランプ点灯)を確認してください。

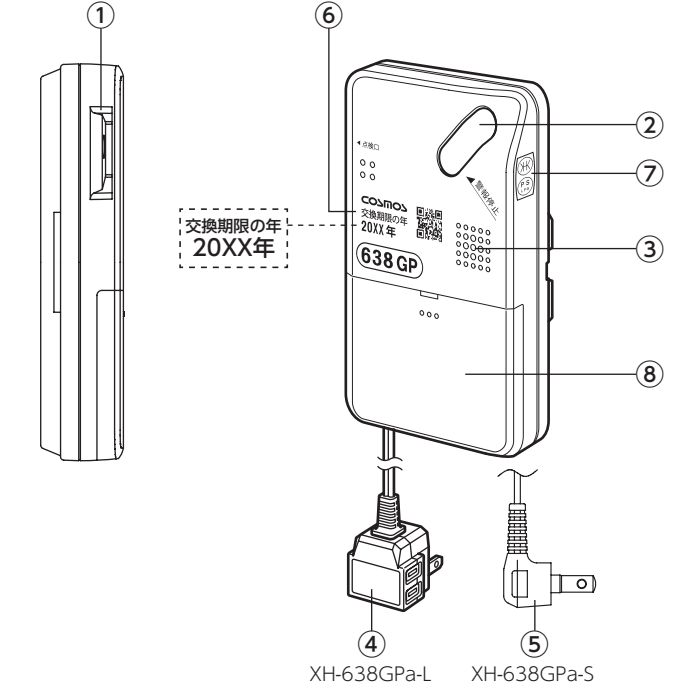
通電されていないと、ガスもれが発生しても警報を発しません。

- ⚠ 交換期限を過ぎた警報器は、新しい警報器と取り替えてください。誤動作のおそれがあります。交換期限は警報器本体に表示されています。
- ⊘ 警報器や電源プラグ(予備コンセント含む)を水につけたり、水をかけたりしないでください。感電・ショート・発煙・発火のおそれがあります。警報器をお手入れするとき以外は、電源プラグを抜かないでください。
- ⊘ ガスもれが発生しても警報を発しません。警報器以外の電気製品を同時に使用するときには、警報器の電源プラグに付属の予備コンセントを使用してください。
- ⊘ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししたり、予備コンセントを触ったりしないでください。
- ⊘ 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを取り除いてください。火災の原因となります。
- ⊘ 警報器の電源プラグや、予備コンセントに接続する他の電気製品の電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- ⊘ 感電・ショート・発煙・発火や、電源プラグ部分の過熱による焼損のおそれがあります。
- ⊘ 警報器の電源プラグに大きな力をかけないでください。(例えば掃除機などの移動して使用する電気製品を接続することや、頻りに抜き差しすることはおやめください。)

注意

- ⊘ 取付位置を移動させないでください。警報器の遅れの原因となります。取付位置を変える必要が生じたときは、販売店にご相談ください。
- ⊘ 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。
- ⊘ 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- ⊘ 警報器の近くでラジオなどを使用しないでください。ラジオなどにノイズ(雑音)が入ることがあります。
- ⊘ 警報器から距離を離してお使いください。

2.各部のなまえとはたらき



- 1 ガス検知部および点検口 ガスを検知します。また点検ガスを注入する部分です。
- 2 警報停止スイッチ (緑(電源)ランプと赤(ガス警報)ランプを内蔵) 通常は緑ランプが点灯しています。ガスを検知すると赤ランプが点灯します。故障しているときは、緑ランプが点滅します。警報中にスイッチを押すと、警報音が約1分間停止することができます。
- 3 警報プザー ガスを検知すると警報音が鳴ります。
- 4 XH-638GPa-L電源プラグ 消費電力が1490W以下の電気製品を接続できる予備コンセント付きです。コード長さは3mです。
- 5 XH-638GPa-S電源プラグ 予備コンセントなしのプラグです。コード長さは30cmです。
- 6 交換期限表示 警報器の交換期限が表示されています。
- 7 検定合格証 高圧ガス保安協会の検定に合格した製品であることを証明しています。
- 8 端子カバー マイコンメータとの接続を行う際に使用します。接続は施工業者にお任せください。

5.『ピーピー』と警報音が鳴り、赤ランプが点灯しているときの処置のしかた

- △危険 警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。爆発のおそれがあります。
 - ⊘ マッチやライターなど、火気を使わない。
 - ⊘ 火気厳禁
 - ⊘ 換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しない。
 - ⊘ 部屋の外から、すぐに入室しないでください。
 - ⊘ 爆発のおそれがあります。
- 1 ドアや窓を開けて換気する。 もれたガスは空気より重く、室内の下部にたまっていきます。爆発のおそれがあります。換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しないでください。
 - 2 ガス栓や器具栓を閉める。 ガスコンセント接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください。
 - 3 ガスがなくなれば、警報音が停止する。 赤ランプが消灯し、緑ランプが点灯します。 ※マイコンメータがガスのしゃ断動作(ガスのしゃ断予告・ガス遮断・復帰安全確認中・ガス使用許可)を行っている場合は、ランプ表示・プザー音が鳴ります(P.6)。
 - 4 ガスもれの原因を確認する。 原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。 ※マイコンメータと接続している場合は、警報音が鳴ってから約30秒後に、マイコンメータがガスをしゃ断します。所定の復帰動作を行ってください。

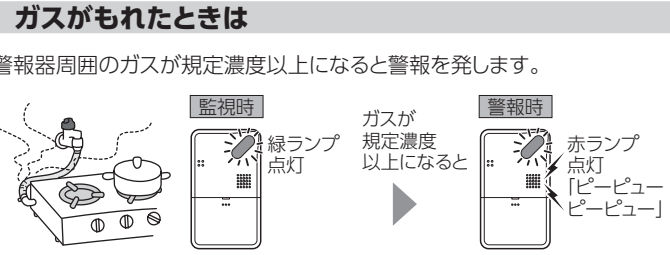
部屋の外から警報音に気づいたときは

- △危険 警報音が鳴っている間は、部屋の外から、すぐに入室しないでください。爆発のおそれがあります。
- 1 部屋に入らない。 ドアや窓を開けて換気してください。

予備コンセントを使用する場合は、警報器以外の電気製品を同時にご使用になる場合は、警報器のプラグに付属している予備コンセントを使用することができます。 ※30cmコード品には予備コンセントはありません。

- △警告 予備コンセントに複数の電気製品を接続しないでください。火災のおそれがあります。接続できるのは1490W以下の電気製品、1台だけです。
- ⚠ 他の電気製品を予備コンセントに接続する場合は、電気製品の電源スイッチを切ってから電源プラグの抜き差しを行ってください。感電のおそれがあります。

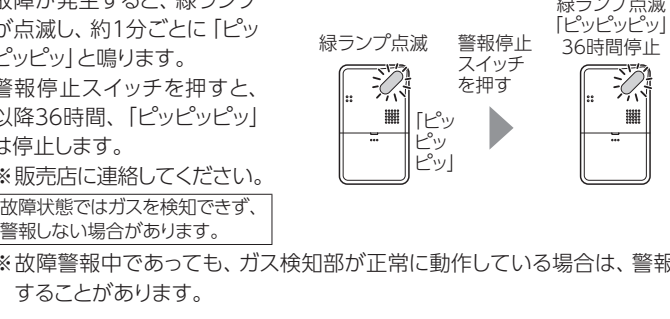
3.警報器のお知らせ機能について



【マイコンメータと接続しているときのみ】

ガス警報時、ガスのしゃ断信号をマイコンメータに送り、ガスをしゃ断します。 ※マイコンメータがガスをしゃ断した場合は、所定の復帰動作を行ってください。

故障したときは



交換期限を過ぎたときは、警報器の交換期限を過ぎると緑ランプがゆっくり点滅^{※1}します(交換期限お知らせ機能)。警報器が正常に動作しないおそれがありますので販売店に連絡し、警報器を交換してください。 ※1: ゆっくり点滅 緑ランプが消灯から点灯、点灯から消灯へ連続的に変化します。

その他の機能

〈警報音確認機能〉 警報停止スイッチを約4秒間押すと、警報音を確認することができます。 ※マイコンメータへの信号は出力されません。



〈鳴動原因表示機能〉

警報停止スイッチを約1秒間押すと、過去10日以内で最後に行った警報器の動作を表下のランプ表示でお知らせします。 ※電源を投入してから約25分以内に起こった警報器の動作の履歴は表示しません。

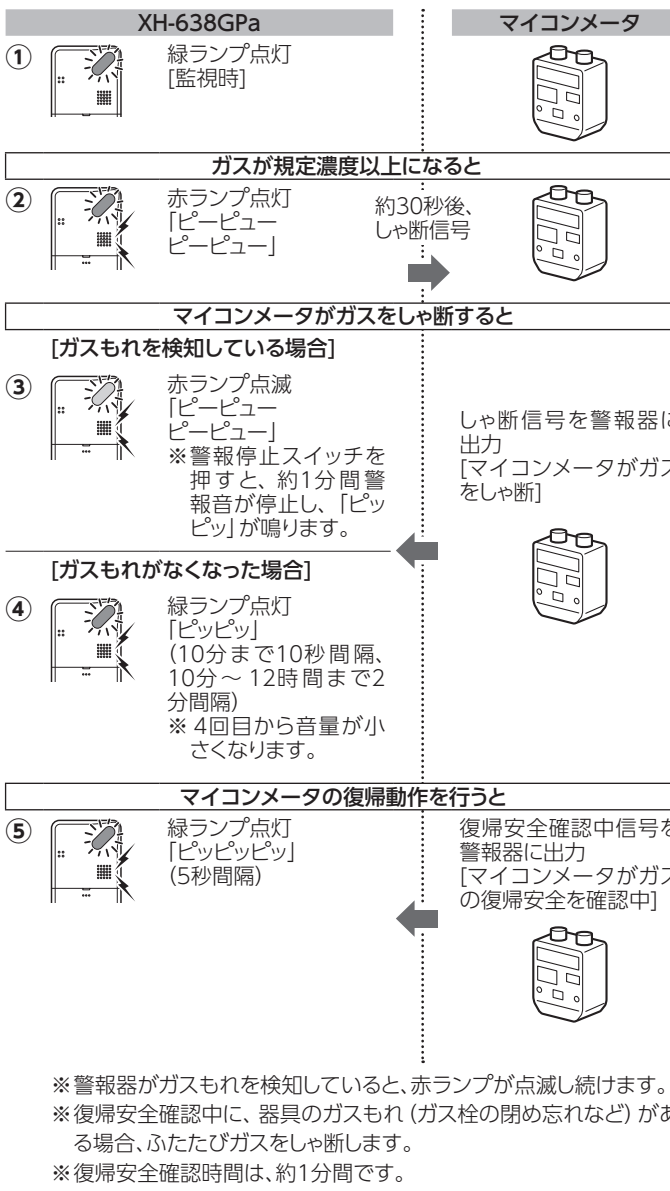
過去10日以内で最後に行った警報器の動作	緑ランプ	赤ランプ
警報なし	—	—
ガス警報	—	1秒間点灯
故障警報	—	1秒間に2回点滅
マイコンメータのしゃ断予告信号を表示 ^{※2}	1秒間に1回点滅	—
マイコンメータのしゃ断信号を表示 ^{※2}	1秒間に2回点滅	—
マイコンメータの復帰安全確認中信号を表示 ^{※2}	1秒間に3回点滅	—
マイコンメータのガス使用許可信号を表示 ^{※2}	1秒点灯	—
マイコンメータとの誤配線表示 ^{※2}	緑と赤の交互点滅	—

※2: S型・E型メータ接続時のみ

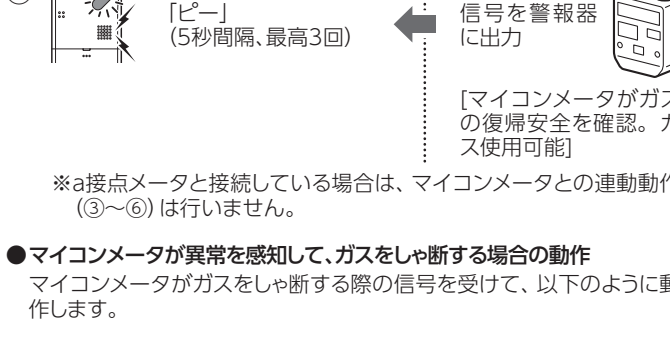
〈マイコンメータ運動機能 (S型・E型メータ接続時のみ)〉

S型・E型メータと接続している場合は、警報器とマイコンメータで信号の送受信を行い、以下のように動作します。

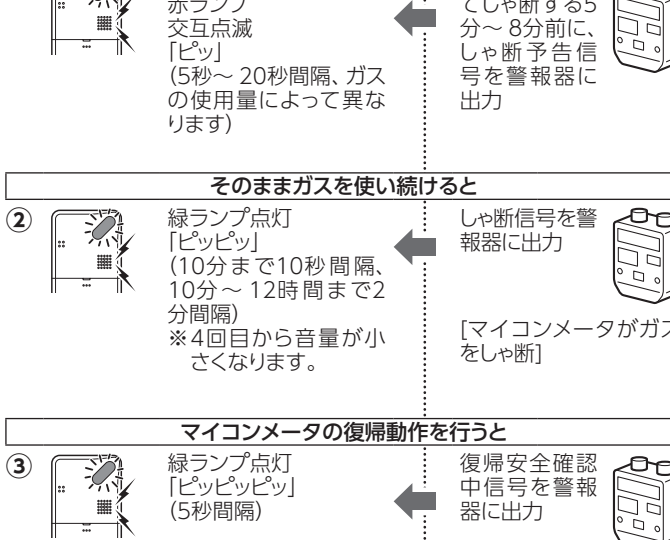
- ガス警報動作 マイコンメータからのしゃ断信号、復帰安全確認中信号、ガス使用許可信号を受けて、以下のように動作します。



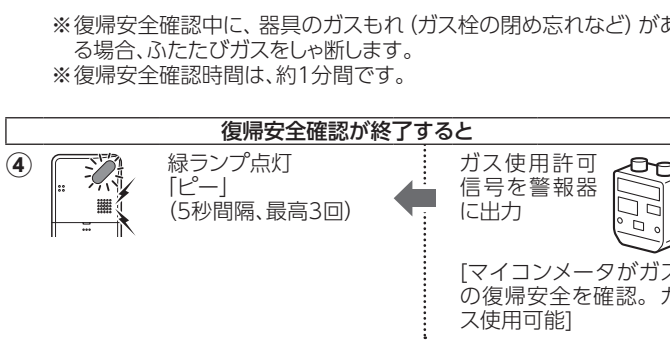
復帰安全確認が終了すると



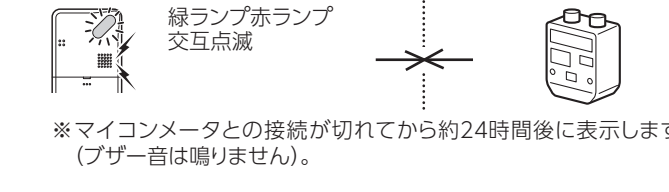
そのままガスを使い続けると



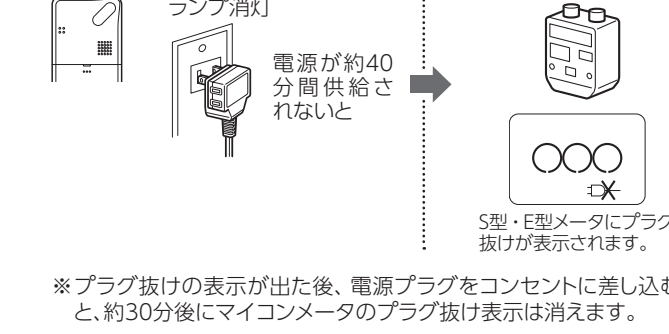
復帰安全確認を行うと



●警報器とマイコンメータとの接続が切れたとき



●警報器の電源プラグが抜けたとき、停電したとき



4.使用方法

- 1 電源プラグをコンセントに差し込む。 緑ランプが点滅します。約20秒間はガスを検知しても警報音は鳴りません(停電復帰時も同じです)。 ※緑ランプの点滅は、警報器の状態によって最長2分間続くとことがあります。
- 2 緑ランプが点灯し、監視状態に入る。 ※初期通電時及び停電復帰後の5分間は、不要な警報を防止する機能が働くため、少し警報しづらくなります。

6 7 8 9 10 11

7. お手入れのしかた

△ 注意

- 警報器をお手入れするときは、必ず警報器の電源プラグを抜いてください。感電やけがの原因となります。接続されているマイコンメータが集中監視を行っている場合、集中監視元で警報があがりますのでご注意ください。
- 警報器の表面が汚れた場合、水または石けん水で濡した布をよく絞ってふき取ってください。
- ふき終わったら、警報器がぬれていることを確認し、電源プラグをもとどおりコンセントに差し込んでください。

③②④①

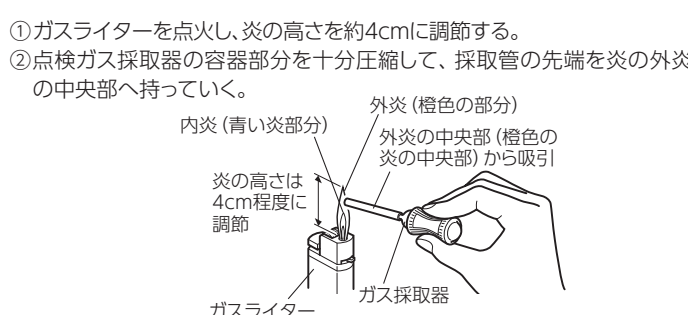
- お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。
- アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールなどを使うと、警報器本体の表面を傷めることがありますので使用しないでください。
- 中性洗剤などを使ったときは、警報器本体の表面に傷がついたり、しばらく赤ランプが点灯したり、警報音が鳴りやまないことがあります。
- 集中監視を行っている場合は、電源プラグを長時間抜いたままにすると、集中監視元に警報があがります（S型・E型メータのみ）。お手入れが終わった後は、電源プラグを差し込んでください。

8. 点検方法

- (1) 日常点検
日常点検は、緑ランプが点灯していることを確認してください。
- (2) 作動点検
準備いただくもの：点検ガス採取器（付属品）、ガスライター（市販品）

△ 注意

- 付属の点検ガス採取器以外は、絶対に使用しないでください。
- 採取したガスを体内に吸引しないでください。
- 中毒症状を起こすおそれがあります。
- 採取したガスは、ガス警報機能の点検以外には使用しないでください。
- ガスを採取した直後の採取管は、絶対に触らないでください。
- 採取管を長時間加熱しないでください。



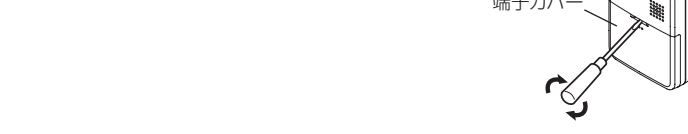
- ③ 容器の圧縮をゆっくり（約3秒程度）ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

3-2 マイコンメータとの接続

△ 注意

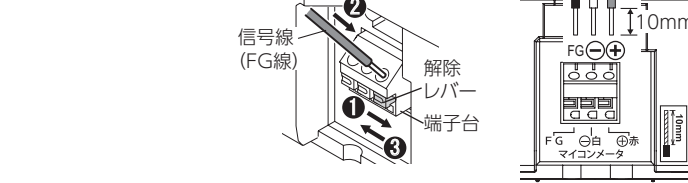
- FG線および信号線の接続は確実に行ってください。
- FG線はアース接地用ではありません。アース接地しないでください。
- 信号端子には極性がありますので注意してください。
- FG線は、信号線と十分な距離をとってください。

- 準備いただくもの：
マイナスドライバー、ニッパー、信号線、FG線
※使用可能電線…単線：φ0.65～1.2mm（AWG22～16）
より線：φ0.5～1.0mm²（AWG20～17）
- ① 端子カバーを外す。
端子カバーの溝にマイナスドライバーを差し込んで回してください。



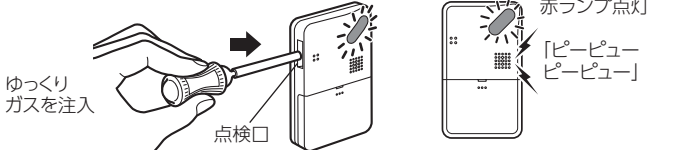
- ② マイコンメータ設定スイッチを確認する。
最初は「S型・E型メータ」に設定されています。
上：S型・E型メータ… マイコンメータS、SB、E、EB型に対応
下：a接点メータ… マイコンメータⅡ、Ⅲ、C、B型（a接点出力）に対応
「a接点メータ」に切り替える場合は、ボールペンなどの先端を使用して、スイッチを切り替えてください。
※異なるマイコンメータ設定スイッチに設定すると、正常に動作しないおそれがあります。

- ③ 警報器の端子部の表示に従って信号線（FG線）を接続する。
信号線（FG線）の先端の被覆を約10mmはがし、
① 解除レバーを押し、
② 端子台前面の穴に線を挿入し、
③ 解除レバーを戻す。



- ※解除レバーを戻した後、線が抜けないことを確認してください。

- ④ 採取管の先端部分の温度が下がるまで（約30秒程度）待った後、点検口にゆっくり（約3秒程度）ガスを注入する。
赤ランプが点灯して警報音が鳴れば、正常です。



- ※ガスを注入しても、警報を発しない場合は、「9.故障かな?と思ったら」を確認して、もう一度同じ作業を行ってください。
それでも警報を発しない場合は、警報器の故障が考えられますので、お買い求めの販売店に連絡してください。

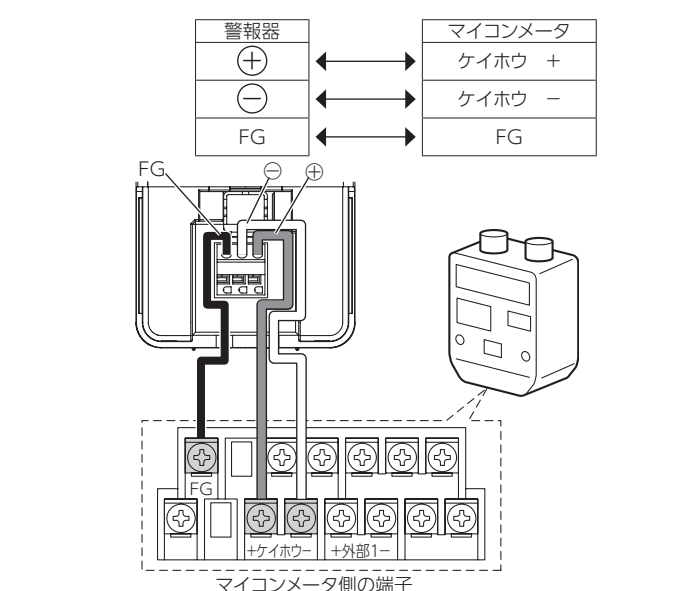
9. 故障かな?と思ったら

こんなときは	ここを確認して	こう処置してください
緑ランプが消灯している。	● 電源プラグが抜けていませんか。 ● 電源ブレーカーが切れていませんか。 ● 停電していませんか。	● 電源プラグをコンセントに差し込んでください。 ● ブレーカーを入れてください。 ● 停電でなければ、警報器の故障が考えられます。販売店にご連絡ください。
警報器が温かくなっている。	-	● 通電により、センサー部を加熱しています。異常ではありません。
緑・赤ランプが交互に点滅している。	● 音が鳴っていない。 ● 「ピピ」音が鳴っている。	● マイコンメータとの接続が切れています。販売店にご連絡ください。 ● ガス器具をお使いの場合は、使用を中断して約15分 [※] 、ガス栓の閉め忘れがないか確認してください。
緑ランプが点灯し、10秒または2分間隔で「ピピピ」が鳴っている。	● マイコンメータがガスをしゃ断したことを知らせています。	● 所定の強制動作を行ってください。
採ア管先端部が「ピピピ」が鳴っている。	● 警報器の故障を知らせています。	● 販売店にご連絡ください。警報停止スイッチを押すと警報音を約36時間止めることができます。
緑ランプがゆっくり点滅している。	● 警報器の交換期限を過ぎたことを知らせています。	● 販売店に連絡して新しい警報器に交換してください。
たびたび警報音が鳴る。	● ガス機器の異常が考えられます。 ● ガス機器以外の燃焼機器の異常が考えられます。	● ガス機器の点検を受けてください。 ● それらの機器も点検を受けてください。
ガスがもれていないのに赤ランプが点灯し警報音が鳴る。	● 原因を調べてください。（P.11「警報音が鳴ったり、赤ランプが点灯した原因について」を参照）	● 処置をしても警報音が鳴りやまない場合は、警報器の故障が考えられます。販売店にご連絡ください。
点検ガスで警報音が鳴らない。	● 点検口を間違えていませんか。 ● 点検ガス採取器にガスが採取されていない可能性があります。	● 正しい位置で点検してください。（P.12「8.点検方法」を参照） ● 点検方法の項をお読みください。（P.12「8.点検方法」を参照）

- ※3：そのままガスを使い続けると、マイコンメータがガスをしゃ断します（マイコンメータがガスの使いすぎや長時間のガスの使用、器具のガスもれを検知し、ガスをしゃ断する機能によるものです）。

- ④ ノックアウト部を切り欠いて、信号線（FG線）を引き出す。

- 【警報器の下部から引き出す場合】
1) 端子カバーのノックアウト部をニッパーなどで切り欠く。
2) 信号線（FG線）を引き直し、警報器の下部から引き出す。
- 【警報器の背面から引き出す場合】
1) 警報器背面のノックアウト部をニッパーなどで切り欠く。
2) 信号線（FG線）を警報器の背面から引き出す。



- ※接続するマイコンメータによって、端子の配置が異なるものがあります。接続する端子を間違えないよう、ご確認ください。
※外部1に接続する場合はマイコンメータ設定スイッチをa接点メータ側に切替えてください。切替えないで使用すると電源プラグを抜いた際に電源プラグ抜け出力信号でマイコンメータがしゃ断します。

10. 交換期限

- 交換期限を過ぎた警報器は、規定の警報ガス濃度で警報を発しないなど誤動作のおそれがありますので、ぜひ新しい警報器とお取り替えください。交換期限は、警報器本体に表示しております。
● 警報器の交換期限を過ぎたときは、販売店までご連絡ください。

11. アフターサービスについて

- 製品および保守点検について、添付の保証書に基づき、警報器本体に表示された交換期限の期限内を保証いたします。万一異常が生じた場合は速やかにお問い合わせの販売店に連絡し保証書をご提示ください。保証書の記載内容に基づき、販売店が点検または交換いたします。
● 保証書の販売店名の記入がない場合、保証対象外となります。お買い求め時にご確認ください。
● アフターサービスについて、ご不明の点がありましたら、販売店までご連絡ください。
● 引越しをされるときは、販売店までご連絡ください。

12. 仕様

	XH-638GPa-L	XH-638GPa-S
種別	液化石油ガス用ガス漏れ警報器（原燃防止型）	
対象ガス	LPガス	
検知方式	半導体式	
警報ガス濃度	爆発下限界 [※] の1/100以上、1/4以下	
警報方式	赤（ガス警報）ランプ点灯 プザー警報音（自動発聲式）	
応答時間	60秒以内	
警報音量	70dB(A)/m以上	
電源	AC100V 50/60Hz	
消費電力	監視時約0.5W、警報時約1W	
外部出力信号	フォトランジスタ オープンコレクタ出力（マイコンメータ専用） 監視時 OFF 警報時 ON/OFF または 警報時 ON 出力信号遅延時間 約30秒	
使用温度範囲	-10℃～40℃（結露しないこと）	
寸法	幅70×高さ120×奥行25mm（突起部除く）	
質量	約210g	約120g
電源コード	長さ3m、予備コンセント付き	長さ30cm、予備コンセントなし

- ※4：爆発下限界
爆発は、空気に対するガスの割合がある範囲になったときに起こる可能性があります。その範囲を爆発限界として、最高濃度を爆発上限界、最低濃度を爆発下限界といします。

3-3 警報器の取り付け（コード振り止めの取り付けを含む）

△ 注意

- 電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップや、釘などで固定しないでください。
- 電源コードの上に重いものを置かないでください。

- ① コード振り止めを壁面に固定する。
はくり紙をはがす
押しつける
汚れをふき取る
強く押しつける
矢印部を切り欠く
- ② 電源コードをコード振り止めにはめ込む。
木ねじ（10mm）
電源コードをはめ込む
- ③ 警報器を取付金具に取り付ける。
取付金具

- ③②④①
余った電源コードは、ガス検知の妨げにならないよう、警報器のガス検知部から離して置いてください。

4 取り付け後の点検

4-1 初期動作の点検

- 電源プラグをコンセントに差し込む。
緑ランプがゆっくり点滅し、約20秒後に点灯になり、警報器は監視状態に入ります。
※このとき、警報器がすでに故障していると緑ランプが点滅し続けます。別の警報器とお取り替えください。
※緑ランプの点滅は、警報器の状態によって最長2分間続きます。
※5：ゆっくり点滅
緑ランプが消灯から点灯、点灯から消灯へ連続的に変化します。



施工説明（施工される方へ）

1 施工される方へのお願いとご注意

おお願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明に従って指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。万一、動作不良があったときは交換してください。マイコンメータと接続される場合は、マイコンメータの取扱説明書および設置工事説明書に基づいて動作確認を行ってください。
- 取り付け終了後、P.23「6-1 警報器の説明」「6-2 お客さまへの周知事項」について、必ずお客さまに説明してください。
- 取り付け前に必ずお読みください。お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

△ 警告

- 作業を誤った場合に、取付作業員および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

△ 注意

- 作業を誤った場合に、取付作業員および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

△ 警告

- 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
 - 警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- ### △ 注意
- 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。
 - 警報器が濡れる原因となります。
 - 付属の取付ねじを使用して確実に取り付けしてください。両面テープなどで取り付けの際は、取付面のほこり・油分などをきれいにふき取ってください。
 - 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。
 - 聴力障害などの原因になります。
 - 正しい取り付け位置に取り付けてください。取り付けがはげない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤動作、故障の原因となります。

2 取り付け前の確認

2-1 梱包部品の確認

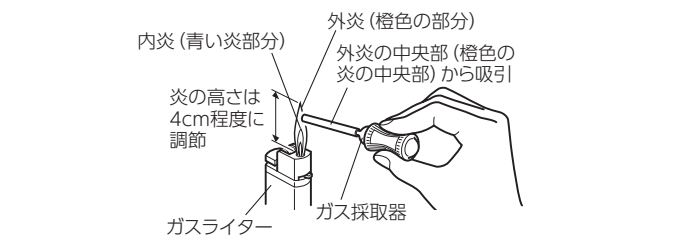
取付金具…1個	コード振り止め…2個	両面テープ…2枚	点検ガス採取器…1個
木ねじ…2本	丸木ねじ…2本	警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカー…1枚	取扱説明書（保証書付）（本書）…1枚

- 【交換期限お知らせ機能を解除する場合】
出荷時、交換期限お知らせ機能が働いています（警報器の交換期限を過ぎたことを緑ランプの点滅でお知らせするものです）。
交換期限お知らせ機能を解除する場合は、警報停止スイッチを押しながら電源プラグをコンセントに差し込んでください。
緑ランプが速く点滅し、約20秒後に点灯になり、警報器は監視状態に入ります。
※交換期限お知らせ機能を復活させる場合は、同じ手順を繰り返してください。
※交換期限お知らせ機能の変更（復活・解除）は何度でも可能です。

4-2 ガス警報機能の点検

- 準備いただくもの：点検ガス採取器（付属品）、ガスライター（市販品）
- ### △ 注意
- 付属の点検ガス採取器以外は、絶対に使用しないでください。
 - 採取したガスを体内に吸引しないでください。
吸引すると、中毒症状を起こす場合があります。
 - 採取したガスは、ガス警報機能の点検以外には使用しないでください。
 - ガスを採取した直後の採取管は、絶対に触らないでください。
- 採取管を長時間加熱しないでください。
やけどをしたり、ガス採取器が破損するおそれがあります。

- ① ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。
- ② 点検ガス採取器の容器部分を十分に圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持って行く。



- ③ 容器の圧縮をゆっくり（約3秒程度）ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

2-2 保証書・警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーへの記入

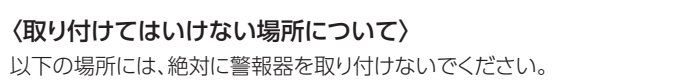
- 保証書の所定の欄に、販売店さまの名称・住所・連絡先を記入してください。
警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーの所定の欄に、販売店さまの名称と連絡先を記入してください。
警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客さまの目につく場所に貼ってください。

2-3 取付位置の確認

- 取付位置については、お客さまとよく相談して決めてください。

（正しい取付位置について）

- 床面から30cmの高さで、ガス器具や元栓（ガス栓）の最も遠いところより水平距離で4m以内の場所へ取り付けてください。
- ガスもれを検知しようとするガス機器を設置している場所と同一の室内に取り付けてください。
- もれたガスが滞留しやすい位置で、ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。



（取り付けてはいけない場所について）

- 警報器に器物や煮ごぼれ、水、油などが落ちるところ。
誤動作や故障の原因となります。
- カテンウォールなどで仕切られるところ。
警報が遅れる原因となります。
- 振動、衝撃の激しいところ。
誤動作や故障の原因となります。
- 台所設備などでさえぎられるところ。
警報が遅れる原因となります。
- 浴室・水のかかる場所、水滴がつかう場所、結露する場所。
感電や電氣的故障の原因となります。
- 屋外。
屋内専用です。



3 取り付けかた

3-1 取付金具の取り付け

△ 注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。



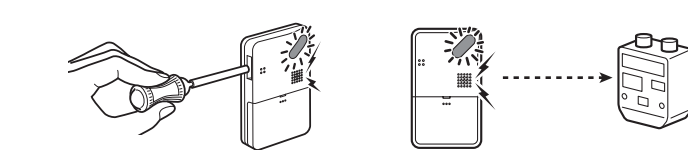
- ※本警報器は、電源投入から5分以内において不要な警報を防止するための機能を備えており、点検ガスで警報しにくい場合があります。
※ガスを注入しても、警報を発しない場合は、もう一度同じ作業を行ってください。
それでも警報を発しない場合は、警報器の故障が考えられますので、別の警報器とお取り替えください。

4-3 単時点検機能でのマイコンメータとの運動確認

- 電源プラグをコンセントに差し込んだ後、警報器が監視状態（緑ランプ点灯）になったことを確認し、警報停止スイッチを約4秒間押す。



- ② 警報音が停止した後、P.21「4-2ガス警報機能の点検」を行う。
警報音が鳴り、即時でマイコンメータにしゃ断信号を出力します。



- ③ 約15秒後に、マイコンメータがガスをしゃ断します。
※接続されているマイコンメータが集中監視を行っている場合、集中監視元で警報があがりますのでご注意ください。
※電源プラグをコンセントに差し込んで約5分以降は、ガス警報が鳴ってから約30秒後に、警報器がしゃ断信号を出力します（通常動作）。

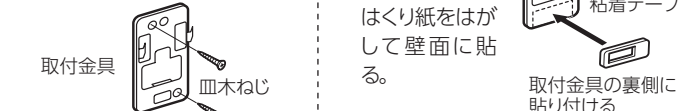
③②④①

- 取付位置は、P.16「2-3 取付位置の確認」の正しい取付位置を守った上で、電源コードの距離・マイコンメータとの接続線の長さ・端子カバーを開けただときの配線のしやすさ・取付金具に警報器を引っ掛けるための隙間などを確認して決定してください。
- 壁面または台所設備の端より、警報器左端を1cm以上離して取り付けてください。



（木質壁・コンクリート壁の場合）

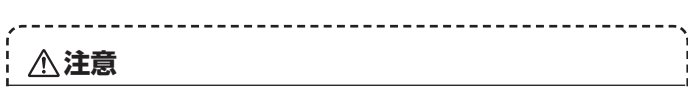
- 取付金具を付属の皿木ねじ（長さ13mm、2本）で壁面に固定する。
※コンクリート壁の場合は、市販のカーブプラグを打ち込んで木ねじを使用してください。



- ③②④①
壁と取付金具が密着するように壁面に十分に押し当ててください。

（取付ピッチ83.5mmのスイッチボックスへ取り付けの場合）

- 取付金具を、M4皿ねじ（市販品）でスイッチボックスに取り付ける。
-



- ### △ 注意
- 信号線は、AC100V線や他の電気機器の電源線など、ノイズの影響を受けるおそれのある電線とは、十分な距離をとってください。
 - 電気設備技術基準および内線規程により、電源プラグを切断して電源線を直結しないでください。感電のおそれがあります。
 - ボックス内で電源を接続する場合は、差込接続器を使用したプラグ接続としてください。差込接続器の配線は、電気工事士の資格が必要です。
 - ボックス内は壁ろうな隔壁で、AC100V線と信号線を区分してください。

5 廃棄について

- 危険物・適正処理困難物ではありませんので、各市町村で定められた方法にしたがって廃棄してください。

6 お客さまへの説明について

6-1 警報器の説明

- ① 警報動作および点検結果の説明。
- ② 取扱説明書を必ず読んでいただくことをお願いします。
- ③ 本書の保管をお願いします。
- ④ 取扱説明書に基づき主要な機能の説明と確認。
 1. ガス警報の内容（赤ランプ点灯、警報音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 2. 部屋の外にいて、ガス警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 3. マイコンメータ連動機能の説明。
 4. 誤報が発生する原因と処置の説明。
 5. 交換期限お知らせ機能の説明。
 6. 警報音確認機能の説明。
 7. 鳴動原因表示機能の説明。

6-2 お客さまへの周知事項

- ① 警報器の交換期限のお知らせ（本体に表示）。
- ② 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ③ 警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーに記載の緊急連絡先のお知らせ。
- ④ 警報器の移設禁止（移設依頼時の連絡先）。
- ⑤ 警報器の分解禁止。
- ⑥ 引越時の処置。
- ⑦ 故障・異常時の連絡先。